

# 2022年4月に新たな研究拠点を設置 名称は「関西医大 光免疫医学研究所」

## 【本件のポイント】

- 本学枚方キャンパス（大阪府枚方市新町2-5-1）に光免疫療法の研究拠点として新たな研究所を設置
- 研究所所長には米国国立衛生研究所（NIH）の主任研究員である小林久隆氏を招へい
- 関西医大が世界的に有望な新たながん治療法の発展に貢献していく

学校法人関西医科大学（大阪府枚方市、理事長・山下敏夫、学長・友田幸一）は、2022年4月（予定）に「関西医科大学附属光免疫医学研究所」を新設し、光免疫療法の研究拠点として新たながんの治療法の確立を目指します。

「光免疫療法」は、米国国立衛生研究所（NIH）の主任研究員である小林久隆氏により開発された治療法で、がん細胞に結び付きやすい薬の投与後、人体に無害な近赤外線を照射することにより、薬と近赤外線が化学反応を起こしがん細胞を破壊するという最新のがん根治療法です。かつてオバマ大統領の一般教書演説で取り上げられたこともあり、副作用の少ない夢のあるがん治療法として大きな期待が各方面から寄せられていました。

このたび光免疫療法による難治性頭頸部がん治療に使用する薬剤がわが国で条件付き正式承認されました。今後、光免疫療法を種々のがんの治療法として確立するために多くの研究資源と優れた人材が必要と考えられます。

## 【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室

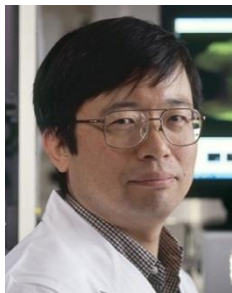
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

## <本件の背景>

本学は、2006年に枚方市に附属病院を、2013年に附属病院に隣接して医学部学舎を設置しました。臨床と研究の現場が近接したことにより、本学における研究体制が整備され、これを機に本学の医学研究をさらに発展させるため新たな医学研究の拠点構想について検討してきました。研究の核となる人材としては、国内外で活躍する優れた人材の中でも「光免疫療法」を開発した小林久隆氏に着目し、本学が目指す医学研究拠点構想の方向性と、同氏が長年米国で取り組まれてきた独創的研究手法の開発と臨床応用研究の展望、および日本における今後の活動の見通しなどを総合的に判断し、同氏を招へいし「関西医科大学附属光免疫医学研究所」を設置することになりました。

本学は、小林久隆氏とともに、この新しい研究所を拠点として、治療がなく苦しんでおられるがん患者にとっての明るい道しるべとなるべく、光免疫療法の基礎および臨床研究を推進してまいります。



小林 久隆 氏

Hisataka Kobayashi, MD., Ph.D.  
Chief (Senior Investigator), Lab. Molecular Theranostic,  
Molecular Imaging Program, Center for Cancer Research,  
National Cancer Institute, NIH

- 1987年 京都大学医学部 卒業
- 1995年 京都大学大学院 内科系核医学専攻 修了
- 1995年 Visiting post-doctoral fellow, Nuclear Medicine Department, CC/NIH
- 1998年 京都大学医学部 映像医療学講座 助手
- 2001年 Senior Fellow, Metabolism Branch, CCR/NCI/NIH
- 2004年 Chief Scientist, Molecular Imaging Program, CCR/NCI/NIH
- 2015年 Senior Investigator (Tenure), Molecular Imaging Program, CCR/NCI/NIH
- 2019年 関西医科大学 客員教授

### 【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp